身延論叢第26号　令和３年３月

利都法師撰『法華経義記』攷(3)

――もう一つの同本離片について――

金　　炳　坤

1　はじめに

2014年８月31日に武蔵野大学有明キャンパスを会場として開催された「日本印度学仏教学会第65回学術大会パネル発表」において、筆者は「西域出土法華章疏の諸相」という論題でパネル発表を行なっている。

そして、その「パネル発表報告」である、望月海慧2015「内陸アジアにおける法華経の展開」『印度学仏教学研究』63(2)：834頁には、下記の通り（文中の丸囲み数字は筆者による補い）、筆者の発表要旨が掲載されている。

> 敦煌及び中央アジア各地で発見された157点の法華経関係文献について概観し、散逸文献を中心としたこれまでの研究成果をまとめて、以下の３書、すなわち、❶利都法師釈『法華経義記』（中国文化遺産研究院蔵：① xj232-碑帖111.4、武田科学振興財団杏雨書屋蔵：②羽589ノ五・六、中央研究院歴史語言研究所傅斯年図書館蔵：③傅図28、④ P.3308）、❷未知の六朝古逸『法華経疏』の同本離片（⑤ BD14693、⑥ P.4567、⑦ BD01670、⑧ S.2439）、❸紀国寺慧浄述『妙法蓮華経纘述』とその関連文献（BD03215、S.6494、S.4107）について発表し、知られざる法華教学史の解明に繋がる新たな資料を提供した。

上記の研究成果は、基本的には、2012年11月26日に立正大学に提出した筆者の課程博士学位請求論文『法華章疏の研究――海東撰述・西域出土本を中心として――』（以下、D 論）にも収録されている、**金炳坤2013b**「西域出土法華章疏の基礎的研究」『仏教学レビュー』13：55-111に基づくものであるが、こと本稿で取り上げようとする❶と❷に絞っていえば、D 論にも収録されている❷については、**金炳坤2013a**「六朝古逸『法華経疏』の同本離片に関する一考察」『身延論叢』18：31-96（以下、本稿を連番の(1)とし、前稿(1)と呼ぶ）において発表したものであり、D 論には収録されていない❶については、**金炳坤2014**「利都法師釈之、比丘曇延許『法華経義記』第一巻について」宮川了篤編『日蓮仏教における祈りの構造と展開』山喜房佛書林、572-549（以下、本稿を連番の(2)とし、前稿(2)と呼ぶ）において発表したものである。

しかしながら、上記の８点のうち②③⑤の３点については、パネル発表のための調査段階での【発見】ということもあって、前稿(1)《❷＝⑥≡⑦≡⑧》と前稿(2)《❶＝①≡④》の研究対象の中に入っておらず、ただ、上記要旨での指摘《❶＝①【⊃②】≡【③⊃】④、❷＝【⑤≡】⑥≡⑦≡⑧》にとどめ、論文としての発表は時期を待つことにしたのである。

それは、丁度その頃の筆者が内外からの求めに応じていくつもの長期プロジェクトに携わっていたからで、しばらく「散逸法華章疏の研究」から距離を置かざるを得ない状況にあったからである。

そしてその中の一つが、身延山大学国際日蓮学研究所の望月海慧所長がユニットリーダーを務める「法華経研究班」の一員として『法華経関係文献目録』を編纂することであった。このプロジェクトは、望月海慧・金炳坤編2020『Bibliography of the Studies on the Saddharmapuṇḍarīkasūtra（1844-2020）』身延山大学国際日蓮学研究所、として公刊されている。

ところで、その甲斐もあって、③に対する研究として、李幸玲2018「臺灣敦煌寫卷《法華經義記》研究」『東亞漢學研究』8：223-232があることと、その中

に先行研究の一つとして、**金炳坤2012**「西域出土法華章疏について」『印度学仏教学研究』61(1)：482-477が挙げられていることを知ったのである。

ただし、李幸玲博士の金炳坤2012に対する参照は、前稿(2)や上記要旨における筆者の❶に対する指摘に論及するためのものではなく、この点が筆者をして時を巻き戻して稿を起こす直接の動機づけになったことは否定しない。

2　資料紹介

本稿を連番の(3)に位置づけた所以は、まだ十分な検討も論証も経ておらず、現段階での筆者の見通しに過ぎないが、写本に向き合っていく中で、次第に❶と❷の８点すべてが利都法師に帰される『法華経義記』（以下、仮定の総称として『利都疏』と呼ぶ）であろうという新たな視点《❶≡❷という仮説》が芽生えてきたからである。

ただし、❶と❷（残存する『利都疏』）は、物理的に接合しない（「譬喩品」から「踊出品」の間を欠く）ために、本稿では、❷の４点の同本離片たることの論証に重点を置き、❶の４点については、簡潔なる資料紹介と問題提起の程度にとどめ、❶と❷の総括は別稿に譲ることにしたい。

❶の４点（① xj232-碑帖111.4、②羽589ノ五・六、③傅図28、④ P.3308）は、いずれも「方便品」の注釈であり、「方便品」までが利都法師撰『法華経義記』の「第一巻」に収まる。ただこの４点は、①（13行349字）の中に②（11行144字）の内容が含まれており《①⊃②》、③（13紙275行）の中にも④（５紙114行）の内容が含まれている《③⊃④》、それぞれが同本の別本（ただし筆者は①と④を同本離片と推定する）であるため、残る課題は、物理的に接合しない①と③が分科の面においてつながっていることを論証《①≡③》することであるが、この点については、すでに前稿(2)の「付記」において指摘《①≡④》しており、一応その根拠も提示しておいたのであるが、さらに詳らかには別稿にて論ずることにしたい。

❷の４点（⑤ BD14693、⑥ P.4567、⑦ BD01670、⑧ S.2439）のうち３点の同本離片たることについては前稿(1)において論証《⑥≡⑦≡⑧》した通りである。

従って、論証すべき課題は、本稿の主題である⑤（「踊出品」の途中から「寿量品」の途中まで）が、⑥⑦⑧と一揃いの同本離片《⑤≡⑥≡⑦≡⑧》である論拠を提示することである。本稿の目的はこの点の論証に尽きる。

さて、❷の４点の現存状況を示せば、下表の通り（『妙法蓮華経』は品題の一行をも典拠に含む。以下、「T9」は省略する）である。

【表Ⅰ】「踊出品」から「普賢品」までの存否について

『妙法蓮華経』の品題	首	尾
従地踊出品第十五	39c18	42a28
如来寿量品第十六	42a29	44a4
分別功徳品第十七	44a5	46b13
随喜功徳品第十八	46b21	47c1
法師功徳品第十九	47c2	50b22
常不軽菩薩品第二十	50b23	51c7

写本番号	有品題	始	終
BD14693	寿量品	40b25	42c12
P.4567	随喜品 法師功徳品	45b11	47c5
BD01670	不軽品	48a24	

如来神力品第二十一	51c8	52c2
嘱累品第二十二	52c3	53a3
薬王菩薩本事品第二十三	53a4	55a8
妙音菩薩品第二十四	55a16	56c1
観世音菩薩普門品第二十五	56c2	58b7
陀羅尼品第二十六	58b8	59b27
妙荘厳王本事品第二十七	59b28	61a4
普賢菩薩勧発品第二十八	61a5	62a29

神力品	52a17

S.2439 嘱累品 薬王品 妙音品 観世音品 陀羅尼品 妙荘厳王品 普賢品	52a17 61c22

上表の通り、❷の４点は重なるところがない。

しかしながら、かつて平井宥慶教授が⑦⑧の同本離片たることを論ずるにあたり２点の特徴として「科段構成に注釈勢力を費やしていること」（前稿(1)の39頁参照）と指摘しているように、接合しないものの、離片と思しきある文献群を同本に落とし込む最も有効的な手法は、分科の面での一致を導き出すことである。因みに、平井教授の指摘する本疏の特徴は、⑦⑧もさることながら、残存する『利都疏』（①～⑧）全体にわたってみられるものである。

従って以下では、科段の整合性に注意を払いながら、⑤BD14693の翻刻を行ない、以て❷の４点の同本離片たることを検証することにしたい。

【凡例】

＊翻刻は、中國國家圖書館編・任繼愈主編2005-2012『國家圖書館藏敦煌遺書』北京圖書館出版社の第132冊所収の「BD14693號　妙法蓮華經疏（擬）」（1-6頁）の影印（全133行）を使用した。

＊BD14693の摘要については、方廣錩主編・李際寧・黄霞副主編2013-2015『中國國家圖書館藏敦煌遺書總目録』中国人民大学出版社の第７冊所収の「條記目録」（３頁）を参照されたい。

＊使えるテキストを意図として、従来の行ごとの改行をやめ、文中に「／」を用いて改行を示し、目安になるよう10行ごとに［10］と行数を示した。また、見出しで科段を示している。

＊文字は「辟＝譬」「零＝靈」等の異体字を含めて、基本的には正字に改めているが、「挵＝短」「萇＝長」等、あえて（写経生の字の癖を表すために）異体字のままにしたり、「導≠道」等、区分して起こしたりしたところもある。

＊その他、文字に関係する記号等は次の通り。■：欠字（文字数は筆者の推定による）。囲み線：欠字の筆者の推定による補い。□：不明（判読不可）。なお、句点は筆者の任意による。

＊翻刻では、削除記号、反転記号（レ）等、原本の校正を反映しており、その詳細については、踊り字（開いて記した）、添え字、置き換え（∽）等の情報と併せて注に明記した。なお、注における【妙】は『妙法蓮華経』のこと、【原】はBD14693のことである。

＊さらに翻刻では、原本で引用する『妙法蓮華経』の経文（T9は省略）を太字で示し、続けてその典拠（「從」「初」「訖」等、経文の範囲を示すところを含む）を明記した。また、注では【科段】に準じて該当する経文の全文を記し、下線を引いて原本との対応関係を示した。なお、科段名に続く（1/2）等は偈の数を表し、２偈のうち１偈という意味である。

3　BD14693の翻刻

UNK.　果門[1]

1．大段第一

[2]■已下■■■■■■■名疑問。第三。從[3]**如是**■■■■■■■■／偈。名爲請決所疑。

1.…. 2.　第二疑問（有三問）[4]

就疑問中。凡有[5]三問。衆生寄■■■■■■。／[6]削明破三歸一。對於舍利。今明壽量。以對彌勒亦可。[7]削明破三歸／一。理處淺近。以對小行。今明壽量。理深旨遠。故對大士。

1.…. 2.1.1.　第一問

[8]就擧偈／問中。初有一偈[9]未。是問也。擧來欲作勢。[10]欲興其問。從**是從何所來**（40b25）者。此／是第一問。其來處。如此大士。德竟高遠。必有栖託。故有問來處／也。

1.…. 2.1.2.　第二問

以何因緣集（40b25）者。此是第二問。其所爲。以之爲。[11]爲**何因緣**（40b25）。而來至此。／

1.…. 2.2.　嘆美其徳結成

從**巨身大神通**（40b26）已下。有一偈半。嘆美其德。結成始初。第一問也。亦應／有結成。第二問。略無文也。

1.…. 2.3. 挙其数多

從[12]**一一諸菩薩**（40b29）已下。有九偈。擧其數多。／［10］欲起第三問。

1.…. 2.4. 第三問

從**是諸大威德**（40c18）已下。[13]正作第[14]三問。問其師詣受學／之處。故言**誰爲其說法教化而**[15]就成（40c19）。

1.…. 3. 第三請決

從[16]**如是諸菩薩**（40c22）已下。第三／請決。

1.…. 3.1. 挙第一問

初有兩偈。擧第一問。以請其答。此之[17]大士。從何而來。[18]來有／方願示方所。故言**願說其所從國土之**[19]**號**（40c25）。

1.…. 3.2. 挙第二問

從**我常遊諸國**（40c26）已下。／有一偈半。擧第二問。以請其答。此諸大士。來必有所。[20]爲我不能達。故／言**願說**[21]**因緣**（40c28）也。**乃不識一人**（40c27）者。[22]欲明彌勒。乃是補處大士。豈可不／達名字。[23]頭數現疑道。或言**不識**（40c27）耳。欲遣此下靈山大衆不識。／踊出來之所爲。欲彰壽量。法身理深。故言**乃不識一人**（40c27）也。

1.…. 3.3. 挙第三問

最／後兩偈。擧第三問。以請其答。上問**從誰初發心**（40c20）。靈山[24]會衆不知。／此人稟承之處。故言**皆欲知此事**（41a1）。**本末之因緣**（41a2）者。本者是師。／［20］末者是弟子。不知師徒。是何人也。

1.…. 4. 分身仏下弟子生其疑問

[25]自下。明[26]分身佛下弟子。生其／[27]疑問。義同[28]彌勒。略擧方所。以問化佛。化佛推答。在於[29]釋迦。所以然者。／時衆機悟。在釋迦也。

2．大段第二（有三文）

從**爾時釋迦**。**告彌勒**（41a14）已下。訖壽量品（44a4）。**果門**／之中。大段第二。正爲三根三因。廣明壽量。法身眞實妙果。就此／段中。復有三文。

第一。從初（41a14）已下。訖後長行及偈（41b28）。爲於利根。略明壽量。／

第二。從**爾時彌勒**。**及無數諸菩薩等**（41b29）已下。訖至良醫喩來（43a8）。

爲[30]於中／根。[31]廣明壽量。

[32]第三。從良醫喩（43a8）已下。爲於下根。就[33]其喩說。以明壽／量。

從此已下。三周明義。各自不同。初略[34]問中。卽挕以[35]顯萇。

第二。廣／門中。聖爲物故。現有生滅[36]據實。而言從本以來。無其生滅。

第三。喩／門中。明物情妄見。聖[37]有去來。眞身堪然。曾無去來。

此中與因門之中／［30］三說。[38]法華大。況愼同義。勢相似耳。

2.1. 第一経文・利根・略門（有二文）

就初段中。復有二文。

第一。[39]從／（41a14）已下。訖盡偈來（41a27）。將答上問。[40]故先誡勸在之於前。

第二。從後萇行[41]及（41a28-b28）。[42]略明／量。答上三問。

2.1.1. 第一文・将答上問

[43]**善哉**（41a14）者。述嘆彌勒。問合時機。**乃能問佛如是大**[44]士（41a15）者。／法身眞果。理中之極。物莫能過。稱爲**大事**（41a15）。然法身理玄三根。諸人／執挕來久。[45]自不精[46]□進[47]□。其懷一往聞說。豈能生信勸。**被精／進鎧發堅固意**（41a16）也。[48]**如來今欲顯發宣示**（41a16-17）者。昔言丈六。是實生滅。隱／他

萇壽。稱爲開也。今彰無窮。爲**顯發**（41a16）也。如來巧能。卽長彰挅。因／挅顯萇。故名**自在神通力**[49]（41a17）也。昔現丈六。未申壽量。似若如伏。今將／遣權。名爲**奮迅之力**（41a18）。眞極法身。能摧四魔。故言**諸佛威猛大勢／力**[50]（41a18）也。偈頌可知。

2.1.2. 第二文・答上三問

從[51]**爾時世尊**。**說此偈已**（41a28）[52]已下。第二。爲[53]於[54]利根。略明壽／［40］量。答上三問。

2.1.2.1. 答第三問

從初（41a28）已下。訖**令發道意**（41b4）。先答第三問。**誰爲其說法／敎化而成就**（40c19）。如來今答。如此大士。我之所化。令其成就。利根已解。王／宮非[55]始生。雙樹非終滅。生滅旣權故知。更有受量法身。但言中未／彰。**我於**[56]**娑婆**（41b2）者。乃[57]是淨土。娑婆之耳。名同體別。若娑婆之化。**令發／道意**（41b4）故知。**從**[58]我**初發心**（40c20）也。

2.1.2.2. 答第一問

從**此諸菩薩**（41b4）已下。訖**正憶念**（41b6）。答第一問。彼／上問言。**是從何所來**（40b25）。今答此問。從其下空界而來。故言**是娑婆世／界之下**。**空中住**（41b4-5）也。凡爲菩薩。要當現同。渾跡塵倍。處[59]苦化物。所以／隱在。**空**[60]界**住**（41b5）者。爲欲顯於萇壽[61]淨界。永離生死。穢濁芬亂。現／居空耳。

2.1.2.3. 答第二問

從[62]何**逸多**（41b6）已下。訖於萇行（41b10）。答第二問。彼上問言。此之大士來／必所。爲**以何因緣集**（40b25）。如來今答。爲顯壽量。淨果故來。**不樂在衆**（41b7）／［50］者。欲明踊出。不樂丈六。始生王宮。終滅雙樹。在衆敎化。

此等大士。／情悕眞極。法身淨界。丈六在衆。非心所其。故言**不樂**（41b7）。釋迦[63]一／應[64]普教被物。名**多有所說**（41b7）。欲明此人。情悕妙理。慕心壽量。以策萬／行。故言**常樂**[65]淨**處**（41b7）。**未曾休息**（41b8）亦可。心散此理。情無有已。**亦不依**／[66]正**人天而住**（41b8）者。小行之流。計其丈六。是實生滅。同於[67]人天。踊出久解。權／生現滅。非實生滅。言**不依**（41b8）也。菩提妙解。無幽不照。[68]故名**深**[69]知（41b8）。不爲／生死之所物錄。名[70]**無**[71]彰**礙**（41b9）。

2.1.2.4. 還頌上文

2.1.2.4.1. 頌答第三問

[72]自下偈中。還頌上文。初有兩偈。頌答第／三問。從**阿逸多**。**是諸大菩薩**（41a29）已下。訖**令發道意**（41b4）。

2.1.2.4.2. 頌答第二問

從**常行頭陀事**（41b16）。一偈。頌／答第二問。從**阿逸多**。**是諸善男**[73]**子**。**不樂在衆**（41b6-7）已下。訖於萇行。

2.1.2.4.3. 頌答第一問

從**如是**／**諸子等**（41b18）已下。一偈半。頌答第一問。從**此諸菩薩**（41b4）已下。訖**正憶**[74]**念**（41b6）。

2.1.2.5. 不復頌上

[75]最後四偈。／［60］不復頌上。自從上來。略說既周。此下四偈。勸生其信。初有一偈。擧諸[76]菩。／德竟高遠。

從**我於伽耶城**（41b23）已下。兩偈。譖此諸[77]菩薩。是已所化。今言**伽耶**（41b23）者。／非是今日伽耶。乃是住昔淨土伽耶。[78]道樹[79]亦然。但言未／顯。故名略說。**我今說實語**（41b27）。一偈。正勸生信。[80]從我**久遠來教化是**[81]**等**／**衆**（41b28）者。

明知成佛非是[82]阿爾。應生其信。

上言**我於伽耶城**（41b23）。訖**爾乃教／化之令初發道心**（41b25）。下言**我從久遠來教化是等衆**（41b28）。起此二言。生下彌／勒。疑請之端。

2.2. 第二経文・中根・広門（有三文）

從**爾時彌勒**[83]。**及**[84]以**無數**。**心生疑**[85]或（41b29-c1）已下。明壽量中。第二經文。／爲於中根。廣明壽量。就中有三文。

第一。從初（41b29）已下。訖於此品（42a28）。彌勒爲／物現生疑請。

第二。從後品初（42b1）已下。訖**雖不實滅而言滅度**（43a5-6）。正明法身／長受妙果。答其疑請。

[86]第三。從**又善男子**（43a7）已下。至喩以來（43a8）。明勸信／［70］不虛。

2.2.1. 第一文（有三文）

就彌勒疑問中。亦有三文。

第一。從[87]初（41b29）已下。訖**令住**三**菩提**[88]（41c3）。名爲／疑念。

第二。從**卽白佛言**（41c3）已下。訖**大功德事**（41c23）。名作[89]問也。

[90]第三。從**我等雖／復信佛**（41c23）已下。訖至偈來（41c28）。名爲請決。

2.2.1.1. 第一疑念

上品初疑。從眼識後生。念此中疑。／從耳識後生。

2.2.1.2. 第二疑問（有二文）

就疑問中。復有二文。

第一。從初（41c3）已下。訖**世所難信**（41c12-13）。直就／法說。執跡生問。

第二。從**譬如有人**（41c13）已下。就其[91]喩說。以生疑問。

2.2.1.2.1. 法説

出於／釋[92]城。**去伽耶**[93]**不遠坐於道場**（41c4-5）者。[94]提上偈言**我於伽耶城菩提樹下／坐**（41b23）。**爾乃教化之**（41b25）。執此近言。謂佛中間。化彼菩薩。故言**從是**[95]以**來始／過**[96]**四十餘年**（41c6）。成佛既近。豈得化此。爾許大人。故言**少時大作佛事**（41c7）。**假／使有人**。[97]百**千萬億劫**。**數**[98]猶**不盡**（41c9-10）。況復化之。而能成就。故言**如此之事世／所難信**（41c12-13）。

2.2.1.2.2. 喩説・難信喩[99]

下作難信喩。**譬如有人**（41c13）者。釋迦如來也。[100]**二十五**（41c13）者。爲物現生。始成／［80］佛也。**指百歳人言是我子**（41c13-14）者。上偈[101]道言[102]**菩提樹**[103]**下**（41b23）。初成正覺。**爾乃／教化之**（41b25）。言此踊出。我之所教。世無此理。故言**是事難信**（41c15）。不達年少。服／定年藥。容顔不改。謂之年幼。是故[104]**經師**。恒引[105]彭祖。以爲況之也。小行／之流。不達壽量。謂佛王宮。是實生也。故下答言。**得**[106]**道**[107]以**來其實未／久**（41c15-16）也。從**而此大衆諸菩薩等**（41c16）已下。廣引踊出。積德既久。不應近化。／結成其問。故言**方云得**[108]**佛**[109]令初**發心**（41c20-21）也。

2.2.1.4. 偈[110]

[111]自下偈中文略。不頌初段疑念。／

初有十一偈。頌上第二疑問。從**即白佛**[112]**言**（41c3）已下。訖[113]**功德事**（41c23）。

最後三偈。頌／上第三請決。從**我等雖復信佛**（41c23）已下。訖長行（41c28）也。

2.2.2. 第二文（有五文）[114]

壽量品／從此已下。中根説中。第二文也。爲彼中人。廣明壽量。答上彌勒[115]疑請之意。／就中有五文。

第一。從[116]初（42b1）已下。訖**我常在[117]娑婆[118]世界說法教化**（42b26-27）。正明釋迦／［90］眞本法身。恒在娑婆。[119]化益衆生。無其生滅。物情淺小。[120]見有生滅。此段／直明成佛來久。

第二。從[121]**亦於餘處**（42b27）已下。訖**能令衆生發歡喜心**（42c5）。名過[122]去一／去。所以明者。欲彰今日生非實生。若過[123]去實滅。云何[124]復生。

第三。從[125]**善男子**。／**如來**。**見諸衆生**（42c5）已下。訖**所作佛事**[126]者**未曾暫廢**（42c19）。名現在一來。欲明衆／生有根。感佛如來。還應明知。生滅俱皆不實。

第四。從[127]**諸善男子**。／**我本行菩薩道**（42c22）已下。訖**難可得見**（43a3）。名現在一去。所以明者。正欲唱滅爲[129]生物／善。亦表如來無生滅也。

第五。從[130]**斯衆生等**（43a3）已下。訖**而言滅度**（43a6）。明未來／[131]一來。欲明衆生聞佛滅度。廣種善根。感佛慈應。若未來還來明知。

現／在滅非實滅。欲爲說法[132]身眞果。無窮之壽。故先勅聽在之於前。但／妙果理玄。是以如來誡之至三。大衆愍[133]情。還有三請如來。

2.2.2.1. 第一文・成仏来久

自／［100］下。將欲爲說。先攬其請。故知**菩薩三請不**[134]正（42b8）。**而告之言**（42b8）已下。騰衆／疑也。丈六應身。隱他眞極。稱爲**祕**[135]蜜（42b9）。卽挕顯長。故稱**神通之力**（42b9）。／**一切世間天人**[136]八部。**皆謂**（42b9-10）。如來實生王宮。今始成佛。此文正是擧上衆／疑。**然善男子**（42b11-12）已下。正訓上問。欲明如來成佛已來無量塵沙。莫／能窮算。故言**成佛已來**。**無量無邊**。**那由他劫**（42b12-13）。若成佛久。明知樹／[137]王。非是始得成。既非始化。此菩薩何足可恠。從**譬如五百千萬**（42b13）已下。／生其成佛。劫數久遠也。**於是事中亦所不達**（42b21）者。彌勒大士。豈可[138]不知。劫／數之事。八地[139]已以上。色難已盡。況復十住。故示訖跡。現疑道或。欲彰／法身。其理深玄。壽量長遠。下人[140]不惻。故言**不達**（42b21）。**我常在[141]娑／[142]婆界**（42b26-27）者。欲明如來古今是一。但物見去流聖都不別。故言**常在**（42b26）。／［110］此段起下。**譬如良醫**

（43a8）以下。訖**乃至百數**（43a10）。

2.2.2.2. 第二文・過去一去

從**亦於餘處**（42b27）已下。第二。正明過／去一去。**亦於餘處**（42b27）者。此方感盡。他方機至。但導王子。隨緣赴感。化／益非一。故言**餘處百千萬億**（42b27）。[143]道**利衆生**（42b28）。**於是中間**。[144][145]**說**然**燈佛等**（42b28-29）者。處其／近礙時人聞[146]佛[147]於[148]燃燈。所奉華[149]至□始得受記[150]阿爾。云何得／與上義相應。[151]今釋此疑。[152]亦是我中間。現化非實記也。故言**中／間**。[153]**說燃燈**（42b28-29）也。**又復言其入[154]涅槃**（42b29）者。亦是如來。過去唱滅。爲益物也。／**皆以方便分別**（42c1）者。言生言滅。是聖切化。非其實也。**若有衆生[155]至我／所**（42c1-2）者。機感扣聖。稱爲至也。爲聖竪知。故言**觀其信等**（42c2）。[156][157]各各**自說／名字不同**（42c3）者。上明根性。有其差別。此明現應。化益不同。上作轉／輪。下作僮僕。乃至現滅。要令得益。故言**自說名字不同**（42c3）。訖**亦復**／［120］**現言[158]入涅槃**（42c4）也。**又以[159]種種方便說微妙法**（42c4-5）者。從此[160]已下。以言方便。成／形方便。此段起下。**以有事緣遠[161]至**他**國**（43a10）已下。訖**宛轉于地**（43a11）。

2.2.2.3. 第三文・現在一来

從**諸善男／子**。**如來**。**見諸衆生**（42c5-6）已下。第三。明現在一來。見此衆生。失其大解。起於三／根。故言**[162]樂於小法**（42c6）。善淺[163]或多。不能受大。爲**德薄垢重**（42c6）。爲斯失解。[164]顚到／衆生。唱言王宮始生。樹王成佛。故言**爲是人說**。**我少出家得**。**菩提**（42c6-7）也。／論實得佛塵沙莫算。故言**成佛[165]久遠若斯**（42c8）。若成佛來。如上初門。所／明劫數。故知向生非實。**但以方便**（42c8）者。現生方便。化益衆生。**令入佛道**（42c9）／也。**[166]作是說**（42c9）者。說有生也。理實法身。永無生滅。從**如來所演經典**（42c10）已下。／上來廣明現身方便。自此已下。欲以言權成其形應。**或說己身**（42c10）者。說■／佛身。**或說他身**（42c11）。說多寶佛身。**或示己身**（42c11）者。示丈六身。**或示**他

身(42c11)者。多／［130］寶塔聲示多寶。**或示己事**（42c11-12）者。現六[167]端相。**或示他事**（42c12）者。因■■■■■／[168]淨土琳琅之事。**諸所言說皆實不虛**（42c12）者。感有言化以■■■■■／■■■**不虛**（42c12）也。下釋所理無言有。應當是[169]虛。所以無生■■■■／■■■■■■得一明達理■[170]

4　おわりに

前稿(1)の続編にあたる本稿では、⑤BD14693と⑥P.4567≡⑦BD01670≡⑧S.2439の同本離片たることを論証するために、本疏が分科の面においてつながっているかを検証すべく、⑤BD14693の翻刻を行ない、これを検討してきたのである。以下、本疏が【果門】の上においてつながっていることを、その同本離片たる論拠として提示し結論にかえたい。

A. ⑤BD14693には「從爾時釋迦告彌勒已下。訖壽量品。果門之中。大段第二」（第22-23行）と【果門】の【大段第二】の範囲が示されている。

B. これにより【果門】の【大段第二】の範囲が「踊出品」の「爾時釋迦牟尼佛告彌勒菩薩」(41a14）から「寿量品」の最後の「速成就佛身」(44a4）までであることが判る。

C. 従って、【果門】の【大段第一】の終わりは「踊出品」の「汝等自當因是得聞」(41a12-13）である。

D. 又た【果門】の【大段第三】については、⑤⑥⑦⑧の同本離片たることを前提とするなら、前稿(1)の44頁において指摘した通り、【果門】の【大段第四】の始まりは「分別品」の「復如來滅後」(45b22-23）であるため、【果門】の【大段第三】は「分別品」の最初の「爾時大會」(44a6）から「分別品」の「當知是爲深信解相」(45b22）までを範囲とすることが判明するのである。

E. 因みに本疏（⑦BD01670）は、「神力品」已下（51c9f）を「流通文」（第

61-62行）とするため、法雲撰『妙法蓮華経義記』の「流通説」（44c19f）、吉蔵撰『法華義疏』の「流通分」（44c19f）、天台の所謂「一品二半」（41a28-44c18）とも異なることが解る。

F. 復た【果門】の範囲については、その始まりは首欠なるが故に確定し得ないが、終わりは、⑤BD14693を、⑥P.4567≡⑦BD01670≡⑧S.2439の同本離片だと想定すれば、前稿(1)において指摘した通り（44-45頁参照）、四段からなる【果門】の【大段第四】の終わりが「不軽品」の最後の「世世値佛　疾成佛道」（51c7）であるため、仮に伝統的な「本門」の始まりに倣い、【果門】の【大段第一】の始まりを「踊出品」の最初の「爾時他方國土」（39c19?）だと仮定すれば、その範囲は「踊出品」から「不軽品」までの六品になるのである。

以上、【果門】の範囲をまとめれば、下表の通りである。

【表Ⅱ】果門の範囲について

【果門】	始	終	存否
【大段第一】	踊出品（39c19?）	踊出品（41a13）	BD14693（始欠）
【大段第二】	踊出品（41a14）	寿量品（44a4）	BD14693（終欠）
【大段第三】	分別品（44a6）	分別品（45b22）	P.4567（始欠）
【大段第四】	分別品（45b22）	不軽品（51c7）	P.4567（間欠）BD01670

最後に、筆者の仮説《❶≡❷》を裏付けるための根拠の一つとして、恐らく関鍵を握っているものと考えられる「経師」という共通項について論及しておきたい。

『利都疏』《❶≡❷という前提》における「経師」の用例は、５例あり《❶＝③傅図28（第117-118行、第147行）、④P.3308（第48行）、❷＝⑤BD14693（第

82行)、⑧S.2349（第46行)》、今のところ「経師」こそが「譬喩品」から「踊出品」（首欠）の間を欠く（ことで、分科の比較が望めない)、❶と❷をつなぐ唯一の糸口になるのである。

「経師」とは、吉蔵撰『法華玄論』『法華義疏』では「経師」「諸経師」「経師皆」「旧経師」「諸旧経師」としてしばしば法雲撰『妙法蓮華経義記』などに言及している例もあるため、恐らく先学（特定できておらず、一人とも限らない）のことを指すものと考えられる。

先達の解釈だとすれば、④P.3308は「大統二年」(536）の写記となるため、当然それ以前の人物と推定せねばならず、中には尾題の下に、釈者利都に並んで「比丘曇延許」とその名を連ねている曇延（『続高僧伝』（T50, 488a3f）に立伝されている当時20歳くらいの曇延（516-588）とは別人か）もこの範疇に収まることになるであろう。

ただし、利都が曇延の講経に参じて、それをベースにして撰した場合は、この限りではなく、曇延を介して知り得た異説、または自身で知り得た曇延とは異なる学説など、複数の選択肢が広がることになる。

加えて、筆者は「筆遣い」(右上りの書体）もしかり「文章の書き方」(注釈方法）からして、①・④～⑧の６点を同本の離片だと推定するが、形状の面でも、一人の調査によるものではなく、また何枚目のどの部分を測定したかにもよるが、離片とみなし得る一応の目安になるものと考えられる「縦幅の長さ」が、揃って26.0-26.5㎝の中に収まっていることも、その根拠の一つとして指摘しておきたい。

注

1　総科の中での【果門】の位置づけが不明（unknown）なため、本稿では「UNK」（＝前稿(1)の「3-?」）と表記しておく。以下、「UNK」は省略する。

2　首欠。

3　「従～」という形式から『妙法蓮華経』の経文であると推定されるが特定し叵い。

因みに、偈頌の前で最も近くにある文例は「如是大菩薩摩訶薩衆」（T9, 40b18-19）になる。亦た、後続の【第三請決】と関連づけて「如是諸菩薩」（T9, 40c22）と推定するなら、後ろが「大菩薩已下。有五偈半」になるため、二句を欠くことになる。以下、「T9」は省略する。

4　第一は【疑念】か。「初段疑念」（第85行）参照。

5　「三＋（文）【原】、（文）＝削除記号あり」。

6　「削＝前、則？」。

7　「削＝前、則？」。

8　「従地踊出品第十五」（以下、「踊出品」）【第一疑念か】「爾時彌勒菩薩。及八千恒河沙諸菩薩衆。皆作是念。我等従昔已來。不見不聞如是大菩薩摩訶薩衆。従地踊出住世尊前。合掌供養問訊如來。時彌勒菩薩摩訶薩。知八千恒河沙諸菩薩等心之所念。并欲自決所疑。合掌向佛。以偈問曰」【第二疑問】【第一問・第二問（1.5/19.5）】「無量千萬億　大衆諸菩薩　昔所未曾見　願兩足尊說　是従何所來　以何因緣集」【嘆美其德結成（1.5/19.5）】「巨身大神通　智慧叵思議　其志念堅固　有大忍辱力　衆生所樂見　爲従何所來」【挙其数多（9/19.5）】「一一諸菩薩　所將諸眷屬　其數無有量　如恒河沙等　或有大菩薩　將六萬恒沙　如是諸大衆　一心求佛道　是諸大師等　六萬恒河沙　俱來供養佛　及護持是經　將五萬恒沙　其數過於是　四萬及三萬　二萬至一萬　一千一百等　乃至一恒沙　半及三四分　億萬分之一　千萬那由他　萬億諸弟子　乃至於半億　其數復過上　百萬至一萬　一千及一百　五十與一十　乃至三二一　單己無眷屬　樂於獨處者　俱來至佛所　其數轉過上　如是諸大衆　若人行籌數　過於恒沙劫　猶不能盡知」【第三問（2/19.5）】「是諸大威德精進菩薩衆　誰爲其說法　敎化而成就　従誰初發心　稱揚何佛法　受持行誰經　修習何佛道」（40b16-c21）

9　「未＝半？」。

10　「欲＝添え字【原】」。二字前の「欲」に削除記号ありか。

11　「爲＝踊り字【原】」。

12　「一＝踊り字【原】」。

13　「（有兩偈）＋正？」。

14　「問」は行書と草書が混ざっており、一見すれば「句」にも読める。

15　「就成＝成就【妙】」。

16　「踊出品」【第三請決】【挙第一問（2/19.5）】「如是諸菩薩　神通大智力　四方地[11]震裂　皆従中[8]踊出　世尊我昔來　未曾見是事　願說其所従　國土之名號」【挙第二

問（1.5/19.5)】「我常遊諸國　未曾見是衆　我於此衆中　乃不識一人　忽然從地出願說其因緣」【挙第三問（2/19.5)】「今此之大會　無量百千億　是諸菩薩等　皆欲知此事　是諸菩薩衆　本末之因緣　無量德世尊　[1]唯願決衆疑」「39n11：震＝振【三】[*]、39n8：踊＝涌【三】【宮】[*]、41n1：唯＝惟【三】」（40c22-41a3）

17 「士ᵣ大【原】」。

18 「來＝踊り字【原】」。

19 「（名）＋號【妙】」。

20 「爲＝添え字【原】」。

21 「（其）＋因【妙】」。

22 「明＝添え字【原】」。

23 「頭＝顯？」。

24 「會＋（上）【原】、（上）＝削除記号あり」。

25 「踊出品」【分身仏下弟子生其疑問】「爾時釋迦牟尼分身諸佛。從無量千萬億他方國土來者。在於八方諸寶樹下師子座上結[2]加趺坐。其佛侍者。各各見是菩薩大衆。於三千大千世界四方從地[8]踊出住於虛空。各白其佛言。世尊。此諸無量無邊阿僧祇菩薩大衆。從何所來。爾時諸佛各告侍者。諸善男子。且待須臾。有菩薩摩訶薩。名曰彌勒。釋迦牟尼佛之所[6]授記。次後作佛。[3]以問斯事。佛今答之。汝等自當因是得聞」「41n2：加＝跏【明】【博】、39n8：踊＝涌【三】【宮】[*]、39n6：授＝受【博】[*]、41n3：以＝已【三】【宮】【博】」（41a4-13）

26 「分＋（別）【原】、（別）＝削除記号あり」。

27 「疑＝添え字【原】」。

28 「勒ᵣ彌【原】」。

29 「迦ᵣ釋【原】」。

30 「中ᵣ於【原】」。

31 「（廣）＋廣【原】、（廣）＝削除記号あり」。

32 【2.3. 第三経文・下根・喩門】は、⑤BD14693にその釈文を欠く。つまり、散逸であるということ。そのため「良医喩」の始まりも明確ではないが、「此段起下」として【広門】と【喩門】との対応関係を述べる第110行においてこれが関説されているために、これを「譬如良醫」（43a8）と推定しておきたい。

33 「其＝添え字【原】」。

34 「問＝門？」。

35 「顯＋（以）【原】、（以）＝削除記号あり」。

36 「據＝權？」。

37 「有＝添え字【原】」。

38 「（況愼）＋法【原】、（況愼）＝削除記号あり」。

39 「從＋（初）？」。

40 「故＝添え字【原】、上故問？」。

41 「及＋（偈）？」。

42 「明壽∽略明【原】」。「略明壽量」（第39-40行）参照。

43 「踊出品」【2.1. 第一経文・利根・略門】【2.1.1. 第一文・将答上問】「爾時釋迦牟尼佛。告彌勒菩薩。善哉善哉[4]阿逸多。乃能問佛如是大事。汝等當共一心。[5]被精進鎧發堅固意。如來[6]今欲顯發宣示諸佛智慧。諸佛自在神通之力。諸佛師子奮迅之力。諸佛威猛大勢之力。爾時世尊。欲重宣此義。而說偈言　當精進一心　我欲說此事　勿得有疑悔　佛智叵思議　汝今出信力　住於忍善中　昔所未聞法　今皆當得聞　我今安慰汝　勿得懷疑懼　佛無不實語　智慧不可量　所得第一法　甚深叵分別　如是今當說　汝等一心聽」「41n4：Ajita.、41n5：被＝披【博】、41n6：今＝令【博】」（41a14-27）

44 「士＝事【妙】」。

45 「不レ自【原】」。

46 「□＝曆－厂【原】」。

47 「□＝屬？」。

48 「來レ如【原】」。

49 「（之）＋力【妙】」。

50 「（之）＋力【妙】」。

51 「踊出品」【2.1.2. 第二文・答上三問】【答第三問】「爾時世尊。說此偈已。告彌勒菩薩。我今於此大衆。宣告汝等。阿逸多。是諸大菩薩摩訶薩。無量無數阿僧祇從地[8]踊出。汝等昔所未見者。我於是娑婆世界。得阿耨多羅三藐三菩提已。教化示導是諸菩薩。調伏其心令發道意。」【答第一問】「此諸菩薩皆於是娑婆世界之下此界虛空中住。於諸經典讀誦通利思惟分別正憶念。」【答第二問】「阿逸多。是諸善男子等。不樂在衆多有所說。常樂靜處懃行精進未曾休息。亦不依止人天而住。常樂深智無有障礙。亦常樂於諸佛之法。一心精進求無上慧。」「39n8：踊＝涌【三】【宮】[*]」（41a28-b10）

52 「已＝踊り字【原】」。

53 「於＋（中）【原】、（中）＝削除記号あり」。

54 「根ㄴ利【原】」。
55 「實∽始【原】」。「始生王宮」（第50行）参照。
56 「（是）＋娑【妙】」。
57 「淨ㄴ是【原】」。
58 「我＝誰【妙】」。
59 「苦＝昔？」。
60 「界＝中【妙】」。
61 「（法）＋淨【原】、（法）＝削除記号あり」。
62 「何＝阿【妙】」。
63 「（在）＋一【原】、（在）＝削除記号あり」。
64 「普＝昔？」。
65 「淨＝靜【妙】」。
66 「正＝止【妙】。
67 「天ㄴ人【原】」。
68 「名ㄴ故【原】」。
69 「知＝智【妙】」。
70 「無＋（有）【妙】」。
71 「彰＝障【妙】」。「彰」は「鄣」の異体字であろう。
72 「踊出品」「爾時世尊欲重宣此義。而說偈言」【還頌上文】【頌答第三問（2/8.5)】「阿逸汝當知　是諸大菩薩　從無數劫來　修習佛智慧　悉是我所化　令發大道心　此等是我子　依止是世界」【頌答第二問（1/8.5)】「常行[7]頭陀事　志樂於靜處　捨大衆憒閙　不樂多所說」【頌答第一問（1.5/8.5)】「如是諸子等　學習我道法　晝夜常精進　爲求佛道故　在娑婆世界　下方空中住」「41n7：Dhuta.」（41b10-20）
73 「子＋（等）【妙】」。
74 「念＝添え字【原】」。
75 「踊出品」【不復頌上】【初有一偈（1/8.5)】「志念力堅固　常懃求智慧　說種種妙法　其心無所畏」【両偈（2/8.5)】「我於[8]伽耶城　菩提樹下坐　得成最正覺　轉無上法輪　爾乃敎化之　令初發道心　今皆住不退　悉當得成佛」【一偈（1/8.5)】「我今說實語　汝等一心[9]信　我從久遠來　敎化是等衆」「41n7：Dhuta.、41n8：Gayā.、41n9：信＝聽【博】」（41b21-28）
76 「菩＋（薩）？」。
77 「菩薩＝添え字【原】」。

78 「（乃是）＋道【原】、（乃是）＝削除記号あり」。

79 「（□□）＋亦【原】、（□□）＝削除記号あり」。

80 「從我＝我從【妙】」。

81 「衆ㇾ等【原】」。

82 「阿＝何？」。

83 「時＝添え字【原】」。

84 「〔以〕－【妙】、〔以〕＝衍字？」。

85 「或＝惑【妙】」。「或」は「惑」の異体字であろう。

86 【2.2.3. 勧信不虚】は、⑤BD14693にその釈文を欠く。

87 「踊出品」【2.2. 第二経文・中根・広門】【2.2.1. 第一文】【2.2.1.1. 第一疑念】「爾時彌勒菩薩摩訶薩。及無數諸菩薩等。心生疑惑怪未曾有。而作是念。云何世尊於少時間。教化如是無量無邊阿僧祇諸大菩薩。令住阿耨多羅三藐三菩提。」【2.2.1.2. 第二疑問】【法説】「卽白佛言。世尊。如來爲太子時出於釋宮。去伽耶城不遠坐於道場。得[10]成阿耨多羅三藐三菩提。從是已來始過四十餘年。世尊。云何於此少時大作佛事。以佛勢力以佛功德。教化如是無量大菩薩衆當成阿耨多羅三藐三菩提。世尊。此大菩薩衆。假使有人。於千萬億劫。數不能盡不得其邊。斯等久遠已來。於無量無邊諸佛所[11]殖諸善根。成就菩薩道常修梵行。世尊。如此之事世所難信。」【喩説・難信喩】「譬如有人。色美髮黑年二十五。指百歳人言是我子。其百歳人。亦指年少言是我父生育我等。是事難信。佛亦如是。得道已來其實未久。而此大衆諸菩薩等。已於無量千萬億劫。爲佛道故懃行精進。善入出住無量百千萬億三昧。得大神通久修梵行。善能次第習諸善法。巧於問答人中之寶。一切世間甚爲希有。今日世尊方云得佛道時初令發心教化示導。令向阿耨多羅三藐三菩提。世尊得佛未久。乃能作此大功德事。」【2.2.1.3. 第三請決】「我等雖復信佛隨宜所説。佛所[12]出言未曾虚妄。佛所知者皆悉通達。然諸新發意菩薩。於佛滅後。若聞是語或不信受。而起破法罪業因縁。唯然世尊。願[13]爲解説除我等疑。及未來世諸善男子。聞此事已亦不生疑。」「41n10：〔成〕－【博】、41n11：殖＝植【三】【宮】、41n12：〔出〕－【博】、41n13：〔爲〕－【博】」（41b29-41c28）

88 「薩∽提【原】」。

89 「（疑）＋問？」。

90 【2.2.1.3. 第三請決】は、分科が示されるだけで、釈文は有しない。つまり、注釈を行なっていないということ。

91 「説ㇾ喩【原】」。

92 「城＝宮【妙】」。
93 「（城）＋不【妙】」。
94 「提＝揭？」。
95 「以＝已【妙】」。
96 「四十＝卌【原】」。
97 「百＝於【妙】」。
98 「猶不＝不能【妙】」。
99 法雲のいう「父少子老譬」（T33, 667b19）のこと。
100「二十＝廿【原】」。
101「道＝遵？」
102「菩＋（薩）【原】、（薩）＝削除記号あり」。
103「下＋（坐）【妙】」。
104「經＝添え字【原】」。
105「彭＝彰？」
106「以レ道【原】」。
107「以＝已【妙】」。
108「佛＋（道時）【妙】」。
109「令初＝初令【妙】」。
110【2.2.1.4. 偈】では、長行との対応関係が示されるだけで、釈文は有しない。
111「踊出品」「爾時彌勒菩薩欲重宣此義。而說偈言」【2.2.1.4. 偈】【頌上第二疑問（11/14）】「佛昔從釋種　出家近伽耶　坐於菩提樹　爾來尙未久　此諸佛子等　其數不可量　久已行佛道　住於神通力　善學菩薩道　不染世間法　如蓮華在水　從地而[8]踊出　皆起恭敬心　住於世尊前　是事難思議　云何而可信　佛得道甚近　所成就甚多　願爲除衆疑　如實分別說　譬如少壯人　年始二十五　示人百歲子　髮白而面皺　是等我所生　子亦說是父　父少而子老　擧世所不信　世尊亦如是　得道來甚近　是諸菩薩等　志固無怯弱　從無量劫來　而行菩薩道　巧於難問答　其心無所畏　忍辱心決定　端正有威德　十方佛所讚　善能分別說　不樂在人衆　常好在禪定　爲求佛道故　於下空中住」【頌上第三請決（3/14）】「我等從佛聞　於此事無疑　願佛爲未來　演說令開解　若有於此經　生疑不信者　卽當墮惡道　願今爲解說　是無量菩薩　云何於少時　敎化令發心　而住不退地」「39n8：踊＝涌【三】【宮】*」（41c28-42a28）
112「言＝添え字【原】」。

113「（大）＋功【妙】」。

114 五文のうち【2.2.2.4. 第四文・現在一去】と【2.2.2.5. 第五文・未来一来】は、⑤BD14693にその釈文を欠く。

115「疑＝添え字【原】」。

116「如来寿量品第十六」（以下、「寿量品」）【2.2.2. 第二文】【2.2.2.1. 第一文・成仏来久】「爾時佛告諸菩薩及一切大衆諸善男子。汝等當信解如來誠諦之語。復告大衆。汝等當信解如來誠諦之語。又復告諸大衆。汝等當信解如來誠諦之語。是時菩薩大衆。彌勒爲首合掌白佛言。世尊。[2]唯願說之。我等當信受佛語。如是三白已。復言[2]唯願說之。我等當信受佛語。爾時世尊。知諸菩薩三請不止。而告之言。汝等諦聽。如來祕密神通之力。一切世間天人及阿修羅。皆[3]謂今釋迦牟尼佛出釋氏宮。去伽耶城不遠坐於道場。得阿耨多羅三藐三菩提。然善男子。我實成佛已來。無量無邊百千萬億那由他劫。譬如五百千萬億那由他阿僧祇三千大千世界。假使有人[4]末爲微塵。過於東方五百千萬億那由他阿僧祇[5]國。乃下一塵。如是東行盡是微塵。諸善男子。於意云何。是諸世界。可得思惟校計知其數不。彌勒菩薩等俱白佛言。世尊。是諸世界無量無邊非算數所知。亦非心力所及。一切聲聞辟支佛。以無漏智。不能思惟知其限數。我等住阿惟越致地。於是事中亦所不達。世尊。如是諸世界無量無邊。爾時佛告大菩薩衆。諸善男子。今當分明宣語汝等。是諸世界。若著微塵及不著者。盡以爲塵一塵一劫。我成佛已來。復過於此百千萬億那由他阿僧祇劫。自從是來。我常在此娑婆世界說法教化。」「42n2：唯＝惟【三】*、42n3：謂＝爲【博】、42n4、末＝抹【三】【宮】、42n5：國＋（土）【博】」（42b1-27）

117「（此）＋娑【妙】」。

118「界レ世【原】」。

119「（教）＋化【原】、（教）＝削除記号あり」。

120「有レ見【原】」。

121「寿量品」【2.2.2.2. 第二文・過去一去】「亦於[6]餘處百千萬億那由他阿僧祇國導利衆生。諸善男子。於是中間。我說[7]燃燈佛等。又復言其入於涅槃。如是皆[8]以方便分別。諸善男子。若有衆生來至我所。我以佛眼。觀其信等諸根利鈍。隨所應度。處處自說名字不同年紀大小。亦復現言當入涅槃。又以種種方便說微妙法。能令衆生發歡喜心。」「42n6：處＝威【宮】、42n7：燃＝然【敦丙】、42n8：以＝已【博】*」（42b27-c5）

122「去＝添え字【原】」。

123「去＝添え字【原】」。

124「生ㇾ復【原】」。

125「寿量品」【2.2.2.3. 第三文・現在一来】「諸善男子。如來。見諸衆生樂於小法德薄垢重者。爲是人說。我少出家得阿耨多羅三藐三菩提。然我實成佛已來久遠若斯。但以方便教化衆生。令入佛道作如是說。諸善男子。如來所演經典。皆爲度脫衆生。或說己身或說[9]他身。或[10]示己身或[10]示他身。或示己事或[10]示他事。諸所言說皆實不虛。所以者何。如來。如實知見三界之相。無有生死若退若出。亦無在世及滅度者。非實非虛非如非異。[11]不如三界見於三界。如斯之事。如來明見無有錯謬。以諸[12]衆生有種種性種種欲種種行種種憶想分別故。欲令生諸善根。以若干因緣譬喩[13]言辭種種說法。所作佛事未曾暫廢。」「42n9：〔他身〕－【博】、42n10：示＝是【博】[*]、42n11：〔不〕－【敦方】、42n12：〔衆生〕－【博】、42n13：言辭＝言詞【宮】」（42c5-21）「（諸）＋善【妙】」。

126「〔者〕－【妙】、〔者〕＝衍字？」。

127「寿量品」【2.2.2.4. 第四文・現在一去】「諸善男子。我本行菩薩道所成壽命。今猶未盡復倍上數。然今非實滅度。而便唱言當取滅度。如來以是方便教化衆生。所以者何。若佛久住於世。薄[15]德之人不種善根。貧窮下賤貪著五欲。入於憶[16]想妄見網中。若見如來常在不滅。便起憍恣而懷厭怠。不能生難遭[17]之想恭敬之心。是故如來以方便說。比丘當知。諸佛出世難可値遇。所以者何。諸薄德人。過無量百千萬億劫。或有[1]見佛或不見者。以此事故我作是言。諸比丘。如來難可得見。」「42n15：德＝福【博】、42n16：妄＝忘【敦方】、42n17：〔之〕－【博】、43n1：見＝値【敦】【敦丙】」（42c22-43a3）。

ただ、この分科に従えば【第三文】と【第四文】の間にある次の二十三字「如是我成佛已來甚大久遠。壽命無量阿僧祇劫常住不滅」（42c19-21）は対象から外れることになる。

128「現＝添え字【原】」。

129「物ㇾ生【原】」。

130「寿量品」【2.2.2.5. 第五文・未来一来】「斯衆生等聞如是語。必當生於難遭之想。心懷戀慕渴仰於佛。便種善根。是故如來。雖不實滅而言滅度」（43a3-6）

「寿量品」【2.2.3. 勧信不虛】「又善男子。諸佛如來法皆如是。爲度衆生皆實不虛。」【2.3. 第三経文・下根・喩門】【2.2.2.1】「譬如良醫智慧聰達。明練方藥善治衆病。其人多諸子息。若十二十乃至百數。」【2.2.2.2】「以有事緣遠至餘國。諸子於後飲他毒藥藥發悶亂宛轉于地。」【2.2.2.3】「是時其父還來歸家（下略）」（43a7-12）

131「一來＝添え字【原】」。

132「身＝添え字【原】」。
133「（情）＋情【原】、（情）＝削除記号あり」。
134「正＝止【妙】」。
135「蜜＝密【妙】」。
136「八部＝及阿修羅【妙】」。
137「（王）＋王【原】、（王）＝削除記号あり」。
138「達∽知【原】」。
139「以＝衍字？」。
140「惻＝測？」。
141「（此）＋娑【妙】」。
142「（世）＋界【妙】」。
143「道＝導【妙】」。「道」は「導」の異体字であろう。
144「（我）＋說【妙】」。基撰『妙法蓮華経玄賛』に「於是中間說燃燈佛等」（T34, 829a28-29）とあり、『妙法蓮華経』には「我」の一字を欠く異本もあったようである。
145「燈レ然【原】、然＝燃【妙】」。「然」は「燃」の異体字であろう。
146「礙＝得？」。
147「於レ佛【原】」。
148「燈レ燃【原】」。
149「至？」。
150「阿＝何？」。
151「（今）＋今【原】、（今）＝削除記号あり」。
152「我レ是【原】」。
153「（我）＋說【妙】」同上。
154「（於）＋涅【妙】」。
155「（來）＋至【妙】」。
156「各各＝處處【妙】」。
157「各＝踊り字【原】」。
158「（當）＋入【妙】」。
159「種＝踊り字【原】」。
160「（以）＋已【原】、（以）＝削除記号あり」。
161「他＝餘【妙】」。

162「於＝添え字【原】」。
163「或＝惑？」。
164「到＝倒？」。
165「（已來）＋久【妙】」。
166「（如）＋是【妙】」。
167「端＝瑞？」。
168「淨土琳琅」（第131行）という用例は、延昌四（515）年五月二十三日の写記として知られる照法師の『勝鬘経疏』（S.524）に一例（T85, 263a23-24）みられる。
169「（處）＋虛【原】、（處）＝削除記号あり」。
170 以下欠。

〈キーワード〉法華義記、分科、科文、果門、経師、曇延、曇慶